

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800195		
法人名	社会福祉法人 内野会		
事業所名	グループホーム 嘉穂		
所在地	〒820-0206 福岡県嘉麻市鴨生476番地6	Tel.0948-42-1555	
自己評価作成日	平成23年10月5日	評価結果確定日	平成23年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	Tel. 093-582-0294	
訪問調査日	平成 23年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体法人が複合施設のため、利用者様の状態や状況変化にも多様なサービスの対応が出来る。また、ホームドクターによる週一回の往診は、通院が困難な車いすの利用者様には好評である。同じく週一回、歯科医や歯科衛生士の往診があり、治療及び治療後のフォローが出来る。PT、OT等のリハビリの専門家がいないため、自分で出来る事はやって頂くという日常生活リハビリで「寝たきり」をさせない、作らない支援を行っている。嘉麻市の介護相談員の方から、「自立に向けての支援をされている」との言葉を頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院、交番、百円ショップ、コンビニ、本屋等が点在する市街地に、老健、デイサービス併設のグループホーム 嘉穂がある。ホーム長と職員は、「家庭的な中で、利用者の能力に合わせた心身の機能回復を行い、自立支援に向けて取り組んでいく」という理念を掲げ、利用者は、生活リハビリや、職員の励まして、生きがいのある暮らしぶりである。利用者や職員は、地域の廃品回収に協力したり、また、中学、高校生の体験学習の受け入れや、幼稚園児との交流等は利用者の生きがいに繋がる楽しみのひとつである。かかりつけ医と協力医による医療連携も確立され、重度化に向けた指針と合わせ、いつまでもここで暮らせるという安全で、安心出来る体制である。また、地域密着型ホームとして、地域住民との信頼関係を大切に、介護相談等を取り入れ、信頼関係の構築を目指すグループホーム嘉穂である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づきその人らしい生活ができるよう、寄り添いながら支援を行っている。	「寄り添ってゆつくりいっしょに」をホームの理念の柱とし、「職員の心得」と合わせ、職員全員で理解し、意識付けしながら、利用者一人ひとりに寄り添った介護サービスを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園、中学、高校の体験学習等を受け入れ、利用者との繋がりを保てるようにしている。地域の廃品回収に参加する等、交流に努めてはいるが一員としての日常的な交流まではいっていない。	併設施設と共同で行事を開催し、地域の方に参加を呼びかけている。また、幼稚園児との交流、中学、高校生の体験学習の受け入れ、町内の廃品回収への協力等、交流の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の代表(介護相談員)や地域のボランティアの方にも声かけし挨拶運動のようなことはやっている。民生委員の会合に参加させてもらい、お話をさせてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	医師や薬剤師、市の担当者、地域の代表、利用者、利用者の家族で構成。本音で意見を出し合うことによって、それを改善やサービスの向上に生かしている。	会議には、利用者、利用者家族、民生委員、介護相談員、行政職員の他に、医師や薬剤師の参加もあり、医療や薬について話をしてもらうなどマンネリ化しないための努力をしている。参加者からは、幅広い意見や情報が出され、充実した会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	細かいことやわからないことなどすぐに電話で問い合わせたり、困難事例等、訪庁して担当の方と接し相談したり、アドバイスを受けたり、日頃から連携を取るようにしている。	運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの状況を把握してもらっている。また、行政窓口に向き、疑問点、問題点を相談できる関係である。また、介護相談員を定期的に受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出の察知や外出傾向を把握に努め、一緒に外出することで対応したり、さりげなく見守りを行っている。	利用者に対し全ての拘束を廃止するために、勉強会や話し合いを繰り返し行い、身体拘束が利用者にもたらす弊害を職員が理解し、確認し、利用者の安全と安心を守る、拘束の無いケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待しない介護をいつも念頭に置いて介護にあつたている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	市の担当者(高齢福祉課)により研修会を開いてもらい、成年後見制度等について学び、必要な時に支援できるようにしている。	成年後見制度の外部研修を受講し、内部のミーティング時に報告、伝達し、職員に理解してもらい、利用者や家族が制度を必要とする時、支援できる体制である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて十分に説明を行い、納得していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中で意見や不満を気軽に口に出せる雰囲気作りに努めている。また、施設内、市町村に苦情相談窓口があることを説明している。	玄関に苦情箱を設置し、苦情相談窓口を掲示している。介護相談員も定期的に来訪し、利用者や話しをしている。家族来訪時には、職員は積極的に会話をしながら、要望を聞き取り、運営に反映させる取り組みがある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕の申し送りやスタッフミーティング、日常の会話の中から意見や提案を聞いている。	会議を定期的開催し、ホーム長は、日頃から職員が意見を言い易い雰囲気作りや体制を整えている。その結果、年齢、経験に関係なく意見を言い合える風通しの良い職場環境になっている。出された意見は、出来るだけホーム運営に反映できるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会や講習会等の情報の提供があり、職員其々が勉強会などに積極的に参加している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用面接時にグループホームの概況や内容をよく説明し、理解してもらっている。	職員の採用は、年齢、性別、経験などの制限はない。高齢者が好きで、やる気のある人物本位で採用している。ホーム長は、職員の特長や専門性を引き出し、職員一人ひとりが生き生きと働けるように工夫をしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	サービス会議やミーティング等に啓発活動を行っている。また、職員が研修に参加できる機会を作っている。	行政主催の出前講座などで、人権についての研修を受講し、職員に伝達し、理解した上で、利用者の人権を守るケアを実践しながら、日々の暮らしの中で、啓発活動に向けて取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員にはマンツーマンで指導を行う。中堅職員にはスキルアップや介護福祉士、ケアマネージャーなどの資格試験を受験できるよう、テキストの準備や勉強会を行い体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、近隣の病院や市役所が行う研修に交替で参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当時は、特に不安も大きいと思われるが、なかなか自ら訴えられることが少ないため、日常の声を多くし、日頃の会話の中から困っていることや不安等を察知できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は、特に不安も大きいと思われるため、こまめに状況を報告をする。また、面会時には、時間の許す限り、家族とのコミュニケーションを図るよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	複合施設のため、相談員や他の責任者と連携を取りながら多様な対応をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは出来るだけやってもらう、自立支援に努めている。女性の利用者が多いので、例えば、料理の作り方をなど教えてもらったり、下ごしらえを手伝ってもらったりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは本人の負の部分を含めてよく話し合い、本人の希望の聞きながら、利用者にとって良いケアとは何かを一緒に考えていくよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人(自宅のご近所の方等)や友人、ご家族の面会は多いが、再三来て頂くようお願いしている。	利用者の重度化に伴い、意向の表出などが困難になってきているが、利用者と会話しながら一つひとつ聴き取り、利用者の馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の席を近くにしている。世話好きの利用者には、他の利用者の方の声かけしてもらうよう協力してもらったり、職員がきっかけを作り、上手くコミュニケーションがとれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他の施設入所以外には、更新によって利用を継続されている。入院の方を定期的にお見舞し、家族とも連絡を取り、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や入居後も希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、本人、家族と話し合い、理解、納得して頂いている。	職員は、利用者やゆっくりと寄り添い、思いや意向を聴きだしながら、家族と相談し、出来るだけ意向が反映されるよう努力している。また、意向の表出の困難な利用者に対しては、アセスメントや友人、知人、家族などから聴き取りながら支援できる体制である。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや日常の会話、家族との会話の中より生活歴等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや観察により、その日の心身の状況の把握に努め、それに合わせて対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き、また、主治医等のアドバイスやスタッフの意見、アイデアを取り入れながら計画作成を行っている。	利用者や家族の要望を聴きながら、主治医や関係者と相談し、介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態に変化があった場合には、家族と連携をとりながら、その都度計画の見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し、記録している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設併設のグループホームのため、母体施設と連携して行事やレクリエーション等を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるギター演奏やおやつ作り、消防署の協力による避難訓練等を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する病院を受診してもらっている。病気の状態によっては本人や家族の同意を得て看護師が同行し、かかりつけ医より服薬の指示や留意点などの情報を得ている。	利用者や家族の希望を優先し、病院受診の支援をしている。また、協力医療機関による往診を週1回実施し、医療連携を図り、適切な医療を安心して受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より、利用者の体調や病気について看護師に相談し、適切なアドバイスを得ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、主治医や病棟の看護師長より情報を得たり、相談をしている。また、退院時に備えて、病院のソーシャルワーカーや病棟看護師長と協力関係を築いている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意志を尊重しながら、かかりつけ医、看護師と連携し、方針に沿った支援に取り組んでいる。	看取りの指針を作成し、利用者の重度化に備え、家族と相談しながら関係者で検討し、方針を共有している。また、ホームで出来ること、出来ないことを利用者や家族に理解してもらい、ホームで出来るだけ長く穏やかに暮らせるよう支援している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルがあり、それに沿って学習している。救急救命の講習会の機会あるごとに受講している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網や避難訓練マニュアルに沿って学習している。同一敷地内にある系列の法人施設に協力を依頼している。	年2回、消防署の協力で夜間を想定した避難訓練を実施している。また、隣接の福祉施設と協力体制もある。	非常災害時、地域住民の協力は重要であるので、行事や会議などで、避難訓練への参加を呼びかけるなど、協力を要請することが望まれる。また、非常食などの備蓄にも取り組んで欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生活歴や性格に合わせた声かけを行っている。入室の際はノックや声かけをしている。記録等個人情報は、個々にファイルを作成、決まった場所に保管している。	職員は、利用者のプライバシーを損なわない優しくさりげない声かけや誘導を行いながら、利用者を人生の先輩として敬愛する姿勢で支援をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の性格を把握し、自己決定が出来るように引き出していく努力をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人、家族の希望に沿って支援している。面会時間、外出・外泊も自由で制限していない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にTPOに合わせた衣服の準備を依頼している。理・美容は本人の希望されるお店があれば自由に行って頂くが、月1回ボランティアの理・美容師さんをお願いし、希望される方が利用されている。		
42	18	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、本人の好物をメニューに取り入れている。また、野菜の皮むきなどの下ごしらえや片付け等できることはやっているといる。	利用者家族の差し入れの栗を使って、栗ご飯、柿を使ってのなます等、野菜を沢山使った気持ちのこもった食事を利用者は職員と談笑しながら同じテーブルで楽しそうに食べている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、栄養のバランスを考え、調理を工夫している。また、食事中も見守りや声かけを行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室で食後の歯磨きをされる人以外は、声かけや見守りにて歯磨きや義歯洗浄を行う。自分で出来ない方は介助にて義歯洗浄やうがいをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄の状態、パターンを把握し声かけ、誘導を行っている。	職員は、しっかりと観察し、排泄チェック表を見ることで、利用者の排泄パターンを把握し、優しい声かけや誘導で、利用者の自立に向けた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食物や乳製品、野菜ジュース等を摂取できるようにしている。イモ類は、毎日摂れるよう調理を工夫している。また、廊下を何往復か歩くよう声かけしたり、状態を親て、お腹をマッサージすることもある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	高血圧や不整脈の方が多いため、体に無理のない範囲内での入浴時間、回数を希望に合わせて入浴できるようにしている。	入浴は週3日であるが、利用者の希望で毎日入ることも可能である。また、入浴を拒まれる方に対しては、無理強いせず気長に説得したり、タイミングをずらしたりしながらの支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムは、ほぼ確立されており、全体的に良眠されている。眠れないときは、職員がそばにいてお話ししたりして対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、かかりつけ医より服薬について指示をもらい服薬管理を行っている。薬の変更時には連絡ノートや各人のファイルに記入し、申し送りでも伝え、変化の観察・確認に努め記、録に残している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むき、裁縫、草取りなど一人ひとりが出来ることをやってもらっている。また、壁飾り作り、カラオケ等で楽しく過ごせるよう気分転換等の支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとお花見等、ドライブで気分転換を図っている。また、ご家族が、面会に来られた際、少しの時間でも一緒に出かけられるようお願いし、協力してもらっている。	自力歩行が困難な利用者が増え、外出が難しくなってきた。季節を五感で感じるためにも、外の空気に触れて過ごせるようドライブなどの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと紛失してもよい程度のお金を所持してもらっている。力量に応じて支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いて出されることはほとんどないが、届いた手紙の代読や電話の取り次ぎ、番号をプッシュするなどの支援はしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の聴覚に合わせての会話。遮光カーテンなどの使用。暖かみのある色合いの照明。季節の花や季節を感じる壁飾りで季節感をだ出せるよう工夫している。	玄関には、コスモス、ススキが飾られ季節感のある温かい雰囲気である。木造平屋建て、天井が吹き抜けで広く明るく開放的で落ち着いた家庭的な雰囲気は、利用者の心を和ませ、来訪者の評判も上々である。また、安全のため、室内には各所にバリアフリーを完備し、安心、安全な住み良い共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりした居間や畳の間。テレビの前にはソファを置き、各人が自由に好きな時に好きな場所で過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	マッチ、ライター、ろうそく等の火事の恐れのある物以外は持ち込みの制限はしていない。使い慣れたものや馴染みのものをもって来られるようアドバイスしている。	居室には、トイレ、洗面台を完備している。家族と相談し、利用者の馴染みのものを持ち込んでもらい、自宅となるべく違和感のないよう穏やかな暮らしを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、廊下、玄関等ホーム内のいたる所に手すりを設置している。また、ワックスは滑りにくいものを使用している。		